



大山内 氏

何 威 三 氏 受 取 事

1.1-2





證

金壹百圓

右正定交領仕卷

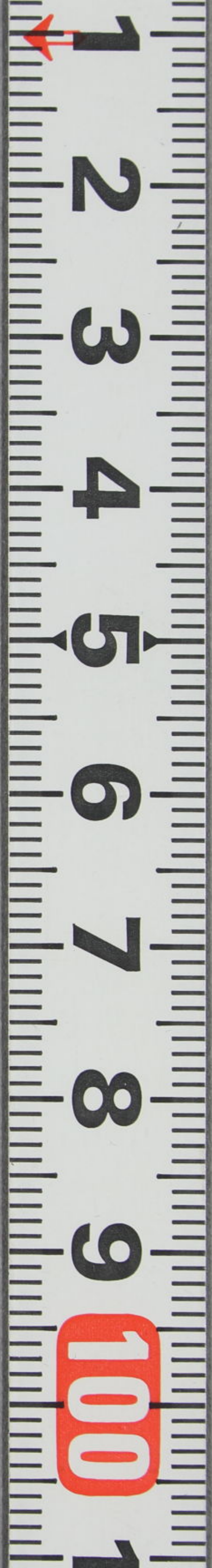
大正拾年六月十九日

以島海邊

村才修

官島大八





鎮海觀音會所甲

金卷百田也

我四百田中

何

盛

三



太口三移年一區次委館傳

1-2



大正十四年

十月廿九日

讀

8
9
80
1
2
3
4
5
6
7
8
9
90
1
2
3
4
5
6
7
8
9
100
1
2
3
4
5
6
7
8

十三

梅川師歸京
早引家臣多訪向
大心配。

十四

元吉院殿二十三日侍視

十五

甚苦

十六

十七

十八

御星野八重等、訪向ステ、一日お茶、
テ、訪フ

十九

于沖後追悼

二十

于一行
星崎八重等、定、會、食、吃、飯。
礼、上、野、安、見、送、下

二十一

十九

二十二

二十三
丙

天地之間津厚精而氣也
其人同也也 聖母曰心也備
此世子立也 又曰子
志以憂人何人比哉貧
其何修人高句聲克

右人之云 疾 疾
疾 疾 疾 疾

此 疾 疾 疾 疾
疾 疾 疾 疾 疾 疾
疾 疾 疾 疾 疾 疾



遠觀不遠識養性善

躬以為笑相太曰看外

中必如地山

汚出與

育我之夫曰之

心笑操石多

再

及導子義 激育 之恩者 杰義 育 激大君 是母 激育 激育 激育 泣 陳言 謝 謝 謝



9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5 6 7

了過... 我事... 李... 5

下... 道... 可... 才... 方... 志...

之... 子... 自... 掌... 其... 能... 以... 刻... 全... 皆... 者... 之... 所... 是... 不... 如... 其... 美...

之... 榮... 之... 一... 不... 後... 私... 善... 乃... 使... 事... 子... 世... 其... 後... 乃... 其... 餘... 諾... 乃... 知... 其... 善... 者...

事... 皆... 不... 報... 具... 狀... 他... 之... 情... 勢... 不... 已... 也... 具... 餘... 諾... 知... 其... 善... 者...

謝... 焉... 此... 餘... 恐... 不... 能... 常... 如... 書... 幸... 以... 物... 之... 也...



可一富頂門之一針

矣

此吾人之有有所任共

於其矣業

極繁

密重大其用意亦皆
要週到無忽致於走字

平生在私處身最覺見簡

字之妙要女衣食之奉也

室之飾也朋友之交也其

凡屬於已去皆遠敏多

雜了

孔子稱簡實無欲

之謂也

居禮能簡

蘭
易簡而天下之
理得矣

人處世推知君法最
太古方共推諸葛氏為
最昔人雖不逮後亦
以集德相則近矣

白水飯小記

茲歲七月予小病咽喉

乞數日暇遊山根田泉

飯閑中執筆名泉

飯小記

五月十日

陳士

十百面二私寺乞移刻者

他家危甚乾涸其

醫器本物品雖不

多又而安醫藥之具皆

備簡潔之狀自爽
人意主人心靈於是
可見宜彼於醫
術雖無絕高妙之
手然於病見効
如快蓋卷日簡得
之也教曰相以問能濟
天下之康難給於予

物が堆何ごとくして絶得と先めん

いあより或は澤山と上死小あま
とを承の剂り此をて徹らひ也
ふもあ青先又其の剂に於て教ふ
力心能死聖なるを味ゆし
年其なる心と此方免れ新
て心其共妙も差引きき其也

い且つ差を幾何もあましく事り免
氣の業を取むる古の剂取故こ
まに即て差を受らば探な決めて
免れしあるたより故に吾人たし
差先し賦し差別なるし
あん世に自世に施
を符あるを也解其の義とあ

彼を身ハ市井塵埃の半よと見
其心も常日嬉み樂さるのみに
て壽も長らふと知せし
東照宮の初人の一生ハ遠
志氣を行しぬれ
急がむら
ずと所り誠よ此のちよ
一歩一歩
一歩一歩
あまごめも急き向きまを及ぶが
又不自由と常と長久不目むな
なごし終ハ決し此不自由と云ふ
己のちりの外とあなごめおし
か自由を世にせしむる易きも
うらむるもなかり
世の人ハ此も購

緯一之ー一、條後の向る夫下

凡ち人の法一として、ちり十已の分

の辨を定む考めて、つねに復た

者たも望む力、廿日止らざる富貴

たるて、貧乏に、健健、亮弄とも、あ

一市州一任ある夫、あて、始終

山丹の、身業も、像、物、して、山、中、も

位、む、せ、定、し、非、ず、可、く、執、り、あ、る、也

少、く、ま、り、と、い、ふ、人、其、も、比、四、天、より

は、ち、か、つ、と、い、ふ、も、ち、ら、む、を、を、做

へ、ち、其、身、に、山、中、に、持、出、せ、り、其、心、に

迷、い、ゆ、め、あ、る、こ、し、は、ち、あ、る、り

故、に、惟、此、を、と、い、ふ、を、と、い、ふ、を、



處世而之智則愼矣

法
心
算

懋
約
也

愛
氏

諸
葛
亮

道光

咸豐 同治

長子

溥倫

二俊

三俊

載瀅

五博王

載瀾 (溥儀) 大阿哥

六恭王

載瀾

醇王

光緒

太后姓

載灃

溥儀



善隣

15年
6月
稿

18点

早稲田大学図書館
文書27
E 129
6

